

平成28年2月

武信真佐夫 学位論文審査要旨

主査 竹内裕美
副査 岡田太
同 久郷裕之

主論文

PITX1 is a possible predictor of the response to chemotherapy in head and neck squamous cell carcinoma

(PITX1は頭頸部扁平上皮癌における化学療法の反応予測因子となりうる)

(著者：武信真佐夫、尾崎充彦、藤原和典、福原隆宏、北野博也、久郷裕之、岡田太)

平成28年 Molecular and Clinical Oncology 掲載予定

参考論文

1. Correlation between quantitative shear wave elastography and pathologic structures of thyroid lesions

(定量的シェアウェーブエラストグラフィと甲状腺病変の病理構造との関係)

(著者：福原隆宏、松田枝里子、遠藤由香利、武信真佐夫、伊澤正一郎、藤原和典、北野博也)

平成27年 Ultrasound in Medicine & Biology 41巻 2326頁～2332頁

審 査 結 果 の 要 旨

本研究は頭頸部扁平上皮癌におけるPITX1の発現とその臨床的意義について検討したものである。その結果、頭頸部扁平上皮癌においては正常組織に比べてPITX1の発現が有意に低いことが判明した。またPITX1の発現は化学療法の感受性との検討において、CR群はSD・PD群に比べてPITX1の発現が有意に高いことが判明した。本論文の内容は、頭頸部扁平上皮癌におけるPITX1の発現に関する初の報告である。また頭頸部癌における化学療法の感受性を予測する上でのPITX1の有用性を示唆するものであり、明らかに学術水準を高めたものと認める。